

<b>No.5</b>	<b>高度化</b>		
<b>氏名</b>	<b>高島 千聖</b>	<b>文学部</b>	<b>4回生</b>
<b>1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。</b>			
「地方就職の可能性」「働く・生きるに関する価値観や考え方」「農業や食のリアル」をテーマとして、十勝で働く社会人の方と関西の学生がフラットに議論し合う交流イベントを行う。目的は大学生のキャリア支援兼、十勝と京都を繋ぐ都市農村交流である。活動内容は、十勝の方々と関西の学生の接点を生む「とかちゼミ」、より短いスパンで行う、リピーター向けの「とかちゼミ部室」、関西の学生を十勝に連れて行き、実際に十勝の企業を周り体験する「とかちゼミツアー」である。			
<b>2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。</b>			
「とかちゼミツアー」：夏休み、本来ならとかちゼミの新規参加者を募ってとかちゼミツアーを十勝で開催する予定だったが、コロナもあったので、もともとその時期に十勝に滞在していた農業インターン参加者を対象にすることにしてとかちゼミツアーを開催した。するとその参加者の中にも関西在住の学生が複数名いたため、今後の運営に参加してくれることになった。「オンラインとかちゼミ」：当初の予定から変更して、11月にオンラインでとかちゼミを開催した。来年以降の引き継ぎのため新規メンバーを加えた体制で運営を行った。「とかちゼミ部室」：とかちゼミ参加者の知りたいことや悩みをベースに、十勝の社会人を交えたゼミを複数回オンラインで実施。テーマの例は「運営メンバーのことを知る会」「起業する時のあれこれを社会人に聞く会」「十勝のパン屋さんの冷凍パン試食会」など。			
<b>5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。</b>			
私は今年度に卒業してしまうので、今後はとかちゼミ参加者で新規運営メンバーになってくれた後輩に運営を引き継ぎ、引き続きとかちゼミ、部室、そしてできることならツアーを行って貰いたい。私自身は、今度は社会人版とかちゼミをやりたいと考えている。新社会人のために悩みをフラットに相談できる社会人とのつながりを育むと同時に、十勝のためにセカンドキャリア以降に十勝という選択肢をより多くの人に持ってほしい。そして新規参加者を増やし、とかちゼミコミュニティをもっと大きくしていく。その先の展望としては、今行っている部室のように、とかちゼミコミュニティの中の私や新たな運営メンバー以外の学生や社会人から、十勝と関西の学生をつなぐような新たなプロジェクトがどんどん生まれていくことだ。物理的な距離のある十勝という場所が、関西の学生などのキャリアや活動の選択肢に入り、十勝の関係人口が増えていくことを狙いつける。			
<b>6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。</b>			
とかちゼミの運営をする中で社会人の方と関わり、企画運営の際の押さえておくべき点など、社会人としての視点をいろいろ教えていただいたのは、これから社会に出る私にとって大きな財産となった。また、私自身は企業に勤めながらも地域との関わりを保ち続けたい、そしてセカンドキャリアにつなげたいという思いがあるので、今年度、コロナがありながらも十勝と連携して活動ができ、今後も継続できそうな状態に持っていけたのは、私の人生において価値のあることだ。社会人になってからもここで得た知見とつながりを活かして、自ら地域とつなげる機会作りを継続的にやっていく。			
<b>7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。</b>			
とかちゼミの参加者は食マネジメント学部など、食や農業に興味のある学生が多い。そんな彼らから、「十勝のリアルな農業や流通などの事情が詳しく聞けて学びになった」という声や、「動物が好きで獣医を目指してたけど、十勝で酪農家を支える牛舎のテントの企業の話聞いて、動物と関わる仕事の新たな選択肢を知った」という声をもらい、学生のキャリアに関する考えが深まったり、選択肢が広がったりしたことが伺える。さらに、実際に十勝の企業の方々と個別でやりとりをしたり、この春休みに十勝に訪問することになったりする学生がでてきて、とかちゼミの学生に与える学生へのインパクトの大きさを実感している。また、とかちゼミの累計参加者数は40名にもなり、十勝の関係人口増加にも貢献している。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
急遽オフラインからオンラインに変更したため、参加者への対応と企業さんへの対応がスムーズにできず、混乱させてしまった。特に、双方にとってとかちゼミに参加することがどうメリットになるのか、イベント設計で一番大事な部分をちゃんと伝えられていなかったことが問題だと企業の方から指摘していただいた。そこで、「オンラインだろうとオフラインだろうと、企業の方と参加者を満足させなければいけないことは変わらない。なんのために参加してもらうのか、どんなメリットを提供できるのか、その出口の部分の設計をしっかりと固めないといけない」と、イベントを行う上で一番大事なところを気づけた。そこからイベント主催者としての意識も高まった。	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
私の所属する文学部地域研究学域地域観光学専攻では、観光振興などによる地域活性化・関係人口の増加などのテーマについて学ぶ機会が数多くある。そこで今回とかちゼミの取り組みを通して、十勝と関西の学生をつなぎ関係人口を創出するを行い、それらのテーマについて実践的に学ぶことができた。また、3-2で述べた「相手のメリットを考える」ということに関しては卒業論文の執筆に役立った。研究に取り組むなかで、ヒアリングや資料収集など、地域の方に協力してもらわなければいけないことがたくさんあった。そこで、自分本位に協力をお願いするのではなく、相手や地域に還元できるような研究テーマを設定し、目的を明確にして伝えることを意識した。とかちゼミで企業の方を相手にしていることから、地域の方々に対しても相手の時間を割いてもらうという意識が芽生え、より有意義な時間にできるよう心がけた。その結果地域の方々の良い関係性を築くことができ、コロナ禍であるにも関わらず、オンラインなどでしっかりと情報を集めることができた。	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	3
<理由> そもそもコロナで活動が抑制されたことにより、目標にはたどりつかなかった。受給前に行ったオフラインとかちゼミの参加者（リピーター）の学生は自ら自分のキャリアに関する悩みを発信し、それが部室に繋がったり、個別で十勝の企業の方とやりとりし、十勝に足を運んだり、まさにキャリア支援と地方創生に寄与できた。ただ、オンラインとかちゼミの新規参加者はそこまでの状態にはまだ持っていけていない。	
② 計画の達成度	3
<理由> 奨学金の受給以前に、コロナでだいぶ計画が変更になったから。もともとやる予定だったオフラインとかちゼミがなくなったこともそうだが、急遽オンラインに変更したことによりスケジュールがずれこみ、前後に行う予定だった部室がいくつか開催できなくなった。そのため前回のオンラインとかちゼミ参加者の状態が上記のようになっていると考えられる。	
③ 取り組みを通じた自己成長	5
<理由> 企業の方と一緒に活動するには、どうしても謝礼などの費用が発生する。そこで今回の奨学金を活用した結果、3-2で述べたように、企業と参加者の間に立って、双方にメリットのあるようにイベントを設計するという経験を通して学ぶことがたくさんあった。実際に企業の方と一緒に進める中で、イベント設計や運営、費用の運用など、教わることもとても多かった。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	
コロナでオフラインとかちゼミができなくなった時も、臨機応変に動き、オンラインでもとにかく実施することに注力し実現できたことから、主体性と推進力・実行力である。	
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	
とかちゼミの運営は団体でやっているわけでもないし、義務でもないが、私がやらなければ何も進まない。相手は企業の方、待っていてくれる学生も何人もいる。しかも奨学金までいただいた。これらが後押しとなり上記の力がついた。一度動き始めてからは参加者の嬉しい声や行動が一番の動機となった。	